

高岡市教育将来構想検討会議
第5回学校教育小委員会

- ・日 時 平成30年8月7日 17:00～
- ・場 所 高岡市役所 本庁舎803会議室

事務局：[資料1]をもとに説明

委員長：なにか質問や意見等はあるか。

委 員：まずやれるところからということで、特別教室に冷房を入れて環境改善を、ということだが、マスコミ報道等を聞いていると国のほうでも何か考えなければならないという話もあって、それをうまく活かせれば早急に取り組みたいという市の話もあると聞いている。高岡市の場合は、今回を第一弾として頑張るということで、この後はなにか考えているか。

教育長：先日、市長の記者会見で答えているが、国の補助の動向を見極めながら、本市の方向性を固めていく、ということになると思う。教育委員会としては、今年の夏は子ども達も苦勞し、保護者の皆さんにもご心配をおかけしており、緊急的な手当てはさせていただいたが、やはり、出来るだけ早い時期に、より環境を整える方向で、市長が言っているように国の補助の動向を見極めながら、機会を逃さず進めていくことが大切かと考えている。そういった方向で財政当局にもお願いをしていきたい。

委 員：今回エアコンを緊急導入する小学校と中学校を教えていただきたい。

事務局：小学校の7校については、野村・下関・能町・定塚・牧野・木津・福岡である。中学校の5校については、芳野・志貴野・高陵・高岡西部・南星である。

委 員：エアコンの導入については、喫緊の課題であると実感している。どの時期に、どの規模で整備していくのか、なるべく早い段階でぜひご提示頂ければと思っている。気になるのは、今日の次の議案にも関わってくると思うが、全ての市内小中学校の普通教室にエアコンを導入した後に小中の統廃合をすると、余計な設備投資になるのではないか。耐震工事も全て終わっている中で、統廃合を進めているのは、決定においては少し問題があったのではないかとと思っている中で、今回もそこは十分に共有いただいた方が良いのではないかと思う。まず、小学校中学校であれば、クラス数の違いや進学のこと踏まえて、たとえば中学校から導入をする、そのあとで小学校を導入していくといった考え方もあるのではないかと思う。新聞報道で、予算的にすべて小中の普通教室に導入した場合、16億円程度かかるといった試算があったが、どのような積算でそこまでの金額となるのか不思議に思っている。エアコン一基あたりの導入にあたり、前例等を含め、まだまだ予算的に削減することもできるのではないか。

事務局：導入の仕方については今後研究していきたい。限られた財源を有効に活用するとい

うのが我々の命題である。手戻りがあるようなことがないように十分検討の上、実施したいと思っている。予算の積算についてだが、我々の積算より低い価格で導入した事例も聞いている。また、長野市の場合は普通の家庭用電源で導入することも検討しているということも聞いている。本市では、現時点では1教室あたり約200万円程で検討している。電源についてはキュービクルの新設等で400万円をみて積算している。現状の実勢価格からすれば、もう少し抑えることができる可能性はあるかと思っている。当然財源が限られているので、有効な調達方法を検討することが重要であると思っている。

委員：8月に入ってすぐエアコンの緊急導入の発表があり、私もPTAの方々もすぐに対応していただいてホッとしたところである。資料1にある7月の平均室温については、どのように計測しているのか。また、緊急導入予定の学校については、PTA内で情報共有して良いのか。また、現状ではエアコンが設置されているコンピュータ室や図書室に児童生徒が移動して授業を受けるということになっているか、そうでなくて、休憩のみに使っているのか。各学校の既存のクーラー設置数と新設のクーラー数を教えていただきたい。現状の運用をPTAで伝えたい。これは意見だが、9月上旬も30度を超えるような気温になった場合、中学校は制服登下校だが、体操服やポロシャツなど涼しい服装や、スポーツ飲料水や首に巻く涼しい商品の使用など、自己防衛のため暑さ対策をして授業を受ける運用は提案したい。

事務局：室温の測定については、各学校午後2時に測定した室温を報告してもらっている。

教育長：9月の平均気温は、上旬と下旬で大きく違うため、日によっては9月に入ってから暑さ対策が必要となってくると思われる。

事務局：各学校のエアコンが入っている図書室、コンピュータ室、会議室などの部屋の運用については、十分活用して欲しいと学校にはお願いしている。順番に授業中も使ったりして対応している。もちろん休み時間も開放している。また、学校毎に中学校では制服で授業を受けるという運用をこれまでしていたが、今年は特別暑かったので、学校では精一杯できることを考えて、半袖短パンで授業を受けることを認めたり、授業中であっても途中に水分補給をするなどの措置はとっていると把握している。運動する際には20分に1回は給水の時間を取ってほしいとお願いしている。

教育長：各学校のエアコン設置状況については資料としてお渡ししたいと思う。

委員：海の日以降は32度を遥かに超えていた。よく子ども達は頑張っていたと思う。教室に40人の生徒が入るとなると、更に室温は上がる。多目的ホール等にエアコンがあるので、休み時間にそこへ入り、体温を下げるよう指導している。また、50分の授業を45分にして、休み時間を10分から15分にして、体を冷やす時間を増やした。授業中もできるだけエアコンのある部屋を活用していた。放課後も部活動はそういった部屋をフルに活用していた。保護者会も全てエアコンのある部屋を活

用した。理科の実験や体育の時間でも定期的に水分補給する時間を設けている。体操服の件については、伝統的に授業は制服で受けていたが、体操服で受けることも可能ということで実施した。しかし、子どもにとって抵抗があるのか着替えない生徒も多かったように思う。また、外の部活動についても気温をみて中止にしていた。飲料水については持ってきて良いのは原則お茶ということになっている。水筒内部に傷がついていた場合、スポーツ飲料が酸性のため、金属中毒を起こす可能性もあるという話を聞いている。また、あまりにも糖分が高いため、健康状態に悪影響を及ぼす可能性もある。過激な運動をやっている場合はスポーツ飲料も有り得るが、授業中はお茶が一番良いのではないかとということで、強制はしていないが指導している。私たちの学校では夏休み期間中に保護者会を実施するなど、行事を削減して、1学期で3日分の授業時間を確保した。逆に、こういった対応により、夏休みを3日間早める方法もあるのではないかと。何とか、子ども達に苦勞をかけないように授業時間を確保したが、子ども達や保護者がどう考え評価したか、まだ声を聞いていないため分からない。ただ、今後もこういった対応をしていきたい。

委員：上の階に行くにしたがって約1度ずつ暑くなっていく。学校に扇風機があっても、ぬるい風をまわしていても何の効果もないと聞いている。1日1時間はエアコンの効いた部屋で授業するようにローテーションを組んだりした。休み時間も利用している。各階でエアコンの設置された特別教室があることはとても意味があることだと思う。防犯予防教室はエアコンのある部屋で、5・6年生については直接講師の方の説明を聞いたり、他の児童は放送やテレビ等を用いて実施した。

委員長：国の対応は具体的にいつ頃決まるのか。

教育長：現在、31年度の概算要求を各省庁が行っているところであり、文科省の設備管理の予算枠を調整している段階だと聞いている。菅官房長官の十分対応するという発言もあったと聞いているが、今のところは省庁の担当部署まではおりていないと聞いている。緊急の対応となると、新年度予算と同様に補正予算を組んでおられるので、その補正予算の中で緊急措置で一定枠が示されれば、時期的には来年度に入ると聞いている。補助を活用した何かしらの検討がされると見込まれる。国の動きをみながら、来年の夏に向けて、こちらも遅れずをお願いしていく。国の予算の場合、現在は1/3の補助のため、こちらも頑張らないとつかないのでは、財政面での調整が必ず必要になってくる。

委員長：続けて事務局より、2つ目の議題について説明をお願いしたい。

事務局：[資料2-1、資料2-2]を用いて説明

委員：今後の見込みについて、五位校区以外についても順次統合していく見込みでよろしいか。

教育長：今後の統合のスケジュールについては、これから皆さんに検討頂いて、どういう順序で進めればよいかご意見を頂きたい。再編統合については校舎の建設等、多額な

費用がかかる。現在、財政健全化緊急プログラムを実施しているので、その中でどれだけ教育に予算をかけていただけるか探りながら、了解いただけた地域については出来るだけ早く進めさせていただきたいと思っている。

委員：私の経験の中では、中規模以上の適正規模の学校の方が教員も児童生徒も充実した印象を受けている。

委員：1 学年 1 学級だとクラス替えもない。自分の子どもがそうだった場合、色々な個性のある子どもに関わらせたいという思いがある。子ども達に一刻も早く中規模校の良さを味わってもらいたいと思う。来年の 3 月に 1 つの案が出るという話だったと思うが、五位中学校区の統合小学校の例を見ても、取りかかりから 5 年 10 年と長い期間がかかってくると思う。エアコンを入れるときに、統合が進まなければ、設備にお金をかけられないことになってくると、少ない財源で設備を進めていく観点から、スピード感を持って 3～4 年のうちに方向が見えて進めていければ良いと思う。

教育長：再編統合の話を皆さんに議論していただいているが、実施がかなり先となるようなことは避けたいと思っている。出来るだけ速やかに、実現が可能なところから適正な規模・環境を作っていきたいと思う。

委員：再編統合について、既存の建物を活用するという考えが大事だと思う。小規模校、過小規模校が将来にわたって回復する見込みがないのであれば、スピード感を持って統廃合を進めるべきだと思う。中 1 ギャップの問題もあるし、せめて 1 学年複数の学級数が必要。財源の問題もあるので、既存の建物を使った統廃合を進めるべき。

教育長：既存の校舎を積極的に活用するのは非常に重要な考え方だと思う。一定の環境を整えて教育の内容そのものを教員が頑張って高めていき、将来の子ども達の力を育むことができると考えているので、施設整備のみを考えて、本末転倒になるようなことはないように十分配慮して進めていきたい。

委員：統廃合については、現在五位中学校区をメインに進めているが、順番はこだわらず、出来るところから既存の校舎等も活用して進めていきたいということだが、私も賛成である。小学校のスポーツ少年団など、1 つの学校でチームを作ることが難しくなっており、複数の学校でチームを作り大会に参加している。そういったことから、スポーツに限らず影響が出てくると思うので、統廃合を進めていけばいいと思う。中学校の部活動についても教員の多忙化が言われているが、大規模校で教員がたくさん居ると 1 つの部活動を複数教員でみることもできるし、子どもにとっても多様な活動を維持できる。部活動については、いつまでも学校に頼るべきではないと思うが、現状は学校で色々な部活動をしている以上、統廃合を進めていかなければならないのではないかと思う。地域の力を活かしてスポーツをサポートしていけるような組織作りに繋がっていけば良い。

教育長：重要な指摘だと思う。以前、石川県の能登で学校再編する際に当時の県の教育長が、高校野球のチームさえ作れない規模の学校をたくさん残していても元気が出てこない、地元で高校野球を一生懸命応援できるような学校にしなければならないのではないかと再編を進めたと聞いている。同じように、地域の元気を作っていくときは、やはりある程度の規模に学校を集約して、地域の皆さんの力を結集して、地域を盛り上げていく。学校は地域コミュニティの核となるので、教育で地域の皆さんが元気になっていき、学校を支援していただく。地域でクラブを作り、部活動を週の何日か面倒を見ていただくなどの方法も考えられる。地域のコミュニティを考えた際に、単に学校を集約するのではなく、医療も福祉も含めた地域を考えながら地域の再編を進めてほしいとの意見も聞いており、我々もそういった貴重な意見を反映させていきたい。

委員：地域によっては子どもの数が増えていく学校も教室数等について大変だと思う。

教育長：おっしゃる通りだと思う。地域差がどんどん大きくなっていく。子どもが極端に少なくなるところもあるし、野村・牧野は増えていく。野村は突出していく。大規模校としての対応も必要となってくる。例えば富山市は、中学校の一部を自由選択性にして、芝園中学校で言えば昨年度で 40 名程の枠があった。その枠については、全市から応募できる。けれどもそれは地元の生徒数を基本として受け入れた上で、受け入れることができる枠があれば募集するような仕組みになっている。来年度は 22 人程になっているはずである。それだけ芝園中学校区に若い子どもを持つ保護者が集まってきたということである。それは、富山市の施策がコンパクトシティであり、それに応じて市の文教地域に人が集まってきている成果だと思う。富山市はそういった方法を取っている。全国で小学校段階から自由選択性を取り入れた所のかかなりの割合で、それをやめて元に戻している。あまりにフリーにしてみると、地域性がなくなってしまう。子どもが少ない地域から、自由選択性によって更に子どもが出てしまうなど、従来、校区があることによって維持できたことが出来ないことも出てきているという全国の傾向があり、結果的に自由選択性を戻してしまったという話を多く聞く。色々な仕組みがあるが、それを選択して、今までの高岡の地域性を大きく崩すことは避けたいと思っている。ただ、大規模校など極端に大きくなっていく問題、校区の問題は出てくるが、そこには過去の歴史があり、その上に現在が成り立っているため、慎重な対応が必要だと思っている。

委員：再編を進めていかなければならない方向性だと思うが、教育委員会としてどのような案を持っているのか。考え方もぜひ聞かせていただきたい。

教育長：個別具体の話となると、直接地域に大きな影響を与えると思うので、県にも倣って個別具体の議論については、会議については閉じた会議として開催させていただきたいと思っている。

委員：地域の学校という意味で考えていくと、良いような悪いような、なんとも悩ましい

問題になってくる。

教育長：校区というのは、皆さんの思いがこもった部分が多いので、皆さんにご意見を頂いて、将来の高岡にとって良い方向をお示し頂ければ大変有り難いと思っている。

以上